

平成29年度 八戸高専 自己点検・評価表

評価  
 5: 期待を上回って実施している  
 4: 十分に実施している  
 3: 実施している  
 2: 十分には実施していない  
 1: 実施していない

2017.12.5

基準	No.	視点	観点	状況	自己評価	改善点	外部評価	コメント
1. 教育の内部質保証システム	1-A	自己点検評価の実施と改善	(1) 自己点検・評価の基準や方法に関する継続的見直しが行われているか。	自己点検・評価体制の再整備を図るため、認証評価対応委員会で八戸高専点検評価規則の見直し案を作成し、運営委員会で規則改正を行った。	4		4.22	・認証評価対応としては大変だと思えます。 ・1-B以外でハイライト部分(強調出来る所)が欲しいところです。 ・3ポリシーは十分な内容であると感じました。特に(DP、CP)ディプロマ、カリキュラムポリシー ・行動計画と結果報告書により取組状況の共有がなされていることがよくわかる。 ・4学期制の長所を生かしながら、更なる改善に努めている点は十分評価されるものと思う。
			(2) 学生、保護者、教員、卒業生、企業等の意見聴取が行われ、自己点検評価に反映されているか。	・学生の声への投書があり、学校側からの回答は掲示で行っている。 ・保護者懇談会を通じて出された要望等は、取りまとめて教員会議で配布し、全教員で共有している。 ・保護者の集いを通じて寄せられた意見や要望に対しては、後援会役員と学校側との会合で書面と口頭で回答するとともに、全教員に配布して共有している。 ・卒業後5年程度の卒業生、および過去5年の就職先企業へのアンケートを実施し、結果を自己点検・評価に反映している。	4			
			(3) 結果が改善に結びついているか。	保護者懇談会や保護者の集いなどを通じて保護者から「秋学期に授業をして欲しい」との要望を受けたこともあり、教務委員会や関係ワーキンググループで改善策を検討している。平成30年度から、秋学期の1・2校時に授業を実施する予定である。	4			
	1-B	年度計画・行動計画の実施	(1) 年度計画の実施状況が点検されているか。	年度計画の各項目に対する実績を取りまとめ、高専機構本部へ報告するとともに、運営委員会で確認を経て、教員会議資料として配布し、全教員に周知している。	5			
			(2) 各委員会等の行動計画に対する実施状況が点検されているか。	各組織において行動計画に対する取組結果を作成し、全体を取りまとめている。運営委員会で確認を経て、教員会議資料として配布し全教員に周知している。	5			
			1-C	3ポリシーの見直し	(1) 3ポリシーが社会の状況の変化等に応じて適宜見直されているか。	昨年度末に策定され、公表された。評議員会の意見も踏まえ、今年度内に見直しを行う予定である。		
2. 教育組織・教員・教育支援者等	2-A	教員の配置	(1) 準学士課程・専攻科課程における一般、専門の教員が適切に配置されているか。	準学士課程・専攻科課程の一般科目、専門科目を担当する教員が、専門分野ごとに配置されている。	4		4.00	・教員の配置は適切だが、労働と研究のバランス確保のため、人員に余裕が必要だろう。
	2-B	教員の採用・昇任	(1) 教員の採用や昇任に関する基準が適切に運用されているか。	教員の採用や昇任に関する基準が定められている。教育・研究業績等の評価のほか、二次選考面接では模擬授業や英語での研究内容説明を実施するなど、基準が適切に運用されている。	4			
	2-C	FD	(1) FD活動が実施され、改善に結びついているか。	FD活動が実施され、学校全体としてWebシラバスの入力が進むなど教育活動の改善に結びついている。	4	H28年度はFDの開催回数が減少傾向にある。		
3. 学習環境及び学生支援等	3-A	施設・設備	(1) 学校の施設・設備が適切な安全・衛生管理の下に活用されているか。	教育・研究に必要な設備については所管の係において使用簿や鍵の接収が行われており、適切に管理されている。また、安全・衛生管理についても毎月、安全衛生委員会において点検が実施されている。	5		4.78	・年々削減される限られた予算では図書、学寮の整備は難しく大変なことだと認識しています。 ・評議員会での説明や報告書を拝見する限り、すばらしい学習環境を整備され、学生支援も熱心にやられていると感じました。 ・キャリア教育の視点を重視した活動が行われていると感じた。 ・専門家を配置した相談室の整備がすばらしい。今後、発達障害等をかかえた生徒が増加すると思われるので、相談室運営の一層の充実が望まれます。 ・学生寮そのものが老朽化しており、快適な学習環境確保に努めてほしい。
			(2) ICT環境が十分なセキュリティ管理の下に整備され、活用されているか。	授業用にパソコン室、時間外は図書室のパソコンが利用でき、無線LAN環境が学内に提供されている。これらの管理は利用簿により管理される。セキュリティについては情報セキュリティポリシーが制定され、運用されており、適切と評価できる	5			
			(3) 図書、学術雑誌、視聴覚資料等が系統的に収集、整理され、有効に活用されているか。	図書委員会において系統的に収集が行われている。また、毎年、各種資料の貸出数・入館数を統計的に把握している。	4	蔵書の充実の要望があり、対応する必要がある。		
	3-B	学生支援	(1) 新入生(編入、留学含む)に対し、履修指導、設備等利用ガイダンス等が実施されているか。	本科1年や3年からの留学生、4年編入学生それぞれにきめ細かく指導を行っている。また、留学生の科目履修については担任と事務と教務によるチェックが行われている。	5			
			(2) 学生の自主的学習に対する相談、助言体制が機能しているか。	オフィスアワーやメンター制度、留学生に対するチューター制度、教員による数学・物理の寺子屋制度など多様なプログラムが用意されている。また、学級担任による個別面談や進路支援担当による進学相談会など充実していると評価できる。	5	H29年度はメンター制度利用者が減少している。		
			(3) 留学生、編入生、障害のある学生への学習・生活支援が行われているか。	外国人留学生に対するチューター制度があり、持ち込みパソコンを使用できる環境を整えるなど、支援が行われている。編入生者に対しては入学前に添削学習指導を行うなどの支援が行われている。	4			
			(4) 学生の経済面や健康面に対する相談体制は機能しているか。	精神科医や臨床心理士の相談も受けられる体制を整えた相談室や保健室が整備され利用されている。	5			
			(5) キャリア教育、進路指導体制は機能しているか。	校長によるキャリア教育が毎年、主な学年に対して行われ、進路指導の参考になっている。また、就職に関しては求人システムがあり、学生が自由に閲覧できるようになっている。さらに、進路マニュアルが整備されており、学生の参考になっている。	5			

基準	No.	視点	観点	状況	自己評価	改善点	外部評価	コメント
			(6) 課外活動等に対する支援体制は有効に機能しているか。	全ての教員が課外活動の顧問を務めており、学生の課外活動に対する支援が有効に機能している。また、各種大会に参加している一方、外部コーチを積極的に活用した支援体制が構築されている。	5			
			(7) 学寮が生活及び勉学の間として整備され、有効に機能しているか。	生活の間として、基本的な施設・設備があり、経年劣化による机、椅子、照明器具の更新等に加え、全補食室への電気ケトル、男子棟への冷蔵庫の設置などを行い、施設・住環境の改善を順次行っている。今年度は女子寮生の増加に対応するため男子寮1棟を女子寮に変更した。勉学の間として、学習時間帯を設け、指導寮生による巡回等により学習環境を整えている。今年度、学寮寺子屋を再開、再構築し、寮生どうしの教え合いの間を設けた。運営・管理業務について、四学期制への対応等、学生の生活・学習環境に配慮した見直しを行っている。	4	老朽化している設備・施設が多数あり更新には予算的な制約を受けている。		
4. 財務基盤及び管理運営	4-A 財務		(1) 学校の目的に沿った教育研究活動を遂行できるだけの財務基盤を有しているか。	本校の目的に沿った教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行するために必要な校地、校舎等の資産を保有し、運営費交付金、授業料、入学金等の経常的な収入を確保している。	4		4.00	・最近では広い意味での危機管理人事評価に厳しい目が向けられており、多くの大学が厳しい査定を受けておりますのでご留意を。 ・厳しい財務基盤の中で極めて効率的な運営がなされている。
			(2) 学校の目的を達成するための活動の財務上の基盤として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。	予算に係る計画については、企画室会議ならびに運営委員会において学内予算配分方針を審議のうえ決定し、その方針により適正に配分している。また、教員会議において報告するとともに会議資料等についても学内グループウェアの掲示板に掲示している。	4			
			(3) 学校の目的を達成するため、教育研究活動に対する資源配分を、学校として適切に行う体制が整備され、実際の予算配分が行われているか。	予算の配分方針は、企画室会議ならびに運営委員会で審議・承認を得ることとしており、その際本校の中期目標・中期計画を考慮し検討している。また、校長裁量経費を設け、より柔軟な予算執行を図っている。なお、学内予算配分方針、学内予算書等については、教員会議において報告するとともに会議資料等についても学内グループウェアの掲示板に掲示している。	4			
			(4) 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。また、財務に係る監査等が適正に行われているか。	高専機構として、ひとつの財務会計システムを構築しており、年度末決算後、このシステムにより財務諸表を作成し、高専機構ホームページで公開している。監査関係については、平成26年度に会計検査院による会計実施検査、平成28年度に監事監査を受けている。また、他高専の職員による高専相互会計内部監査、学内会計内部監査については毎年度実施している。	4			
	4-B 管理運営		(1) 管理運営の諸規程が整備され、各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。	管理運営の諸規程は、八戸高専組織運営規則を基本に、各種委員会等規則を制定している。また、各委員会においては定例会議または必要に応じて開催しており、必ず事務職員が委員や幹事として参画している。	4			
			(2) 危機管理を含む安全管理体制が整備されているか。	平成23年度に高専機構からのリスク管理に関する要請を受け、八戸高専危機管理規則を制定し危機管理に係る体制を整備している。また、危機管理マニュアルの平成29年3月版を策定している。	4			
			(3) 外部資金を積極的に受入れる取組が行われているか。	毎月の運営委員会、教員会議において外部資金受入状況を周知するとともに、外部資金の積極的な獲得を依頼している。	4			
			(4) 外部の教育資源が積極的に活用されているか。	本校では学校の目的を達成するために、国内外の高等教育機関や高等学校、地域企業、同窓生など、多くの外部教育資源を積極的に活用している。	4			
			(5) 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組が組織的に行われているか。	高専機構本部が実施する研修会のほか、国立大学法人等の研修、国、地方自治体等が主催する研修等に職員を派遣し、職務遂行能力の向上を図っている。また、職員の能力及び業務遂行意欲の向上、組織の業務運営の一層の活性化を図ることを目的に、毎年度職員人事評価を実施している。	4			
	4-C 情報の提供		(1) 学校における教育研究活動等の状況についての情報が公表されているか。	本校における教育研究活動等の状況については、ホームページのほか、刊行物として学校要覧、学校案内、シラバス、募集要項、高専だよりなどがある。これらはホームページ上にも公開されており、広く一般社会に対して情報発信を行っている。	4			
5-A 教育課程の編成と実施		(1) CPIに基づくカリキュラムとなっているか。	CPIに基づき、授業科目を学年ごとに適切に配置し、体系的に編成されているといえる。	5				
		(2) カリキュラムには、学生、社会のニーズが反映されているか。	社会の要請は課題発見・解決型の学生と考え、自主探究学習をスタートさせた。また、COC事業により地域志向科目を年々増加させて、地域のニーズを反映させており、社会や学生のニーズを反映していると評価できる。	4	学生の声を取り入れる姿勢はあるが、実績はない			
		(3) 創造力や実践力を育む教育が行われているか。	校外実習については、75%～100%の学生が参加しており、きわめて高い状態で実践的な教育が継続されており、評価できる。創造力に関しても第3学年から第4学年にかけてPBL科目が、5年生で卒業研究を行っており、適切である。	5				



基準	No.	視点	観点	状況	自己評価	改善点	外部評価	コメント	
5. 準学士課程の教育課程・方法	5-B	授業形態・指導法	(4) 異文化を理解する姿勢を育む国際交流活動が行われているか。	シンガポール、モンゴル、中国、フランス、フィンランドなど多様な海外研修プログラムが用意され、学生が参加している。また、教員もアメリカへの研修に参加するなど、教育・研究活動に役立てており、評価できる。	5		4.89	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よく実施されていると思います。</li> <li>・国際交流活動がすばらしいと思います。</li> <li>・課題をもとにした4学期制の運用の見直しなど、改善への意識が高い。また、留年時の先行履修制度など、学生視点の改善もよい。</li> <li>・国際交流への取り組み姿勢がしっかりしている。単に交流だけでなく異文化の中での研究テーマを見出し、創造を実践の教育に生かされている点が素晴らしい。</li> </ul>	
			(1) 学習指導上の工夫は行われているか。	アクティブラーニングを取り入れた授業(数理演習)やICTやCBTを取り入れた授業(情報処理)など工夫された授業が行われており、評価できる。これらの取り組みは点検委員会にて授業方法の点検が行われ、改善しようとする取り組みが行われている。	5				
			(2) CPIに沿って適切なシラバスが作成され、活用されているか。	シラバスは作成後の点検でカリキュラムの設計に適合するかを点検し、学習・教育到達目標のどの項目に適合するかも点検している。最初の授業では教員から学生に内容を説明しており、在校生アンケートからも8割以上の学生が説明されたことを認識している。	5				
	5-C	成績評価、単位・卒業認定	(3) 学修単位科目の自学自習時間の実質化に向けた取り組みが行われているか。	自学自習時間は成績エビデンスに集約され、学校として把握している。その実質化については一部の科目についてCBTベースの授業で統計を取り、おおむね満足が得られる時間の学修を確認している。	4	CBT利用科目以外についての自学自習時間の把握が望まれる			
			(1) 成績評価基準、単位認定基準、卒業認定基準の周知が図られているか。	該当の基準はシラバス、学生便覧で周知されるほか、各学期ごとの成績通知表に同封して周知されており、適正である。	5				
			(2) 成績評価は適切に行われているか。	成績評価はシラバスに記載した基準により行われる。学生が試験結果を確認できるよう答案返却を行い、その後、成績に対する異議申立期間を設定しており、適正と考える。	4	長期休業前の異議申立期間の設定は検討・改善が必要			
	6. 学生の受け入れ	6-A	APIに沿った学生の受け入れ	(3) 進級・卒業認定は基準に従って適切に行われているか。	成績判定資料の通り、決められた基準に沿って適正に行われている。	4			
				(1) APIに沿った入学者選抜方法となっているか。	数学・理科・英語に秀でた学生を受け入れるよう、APを周知し、推薦・学力選抜において、当該科目の傾斜配点を実施している。また、ものづくりへの関心を面接で聞いている。	4			APIに入学者選抜方針を盛り込む必要がある。
				(2) 入学者がAPIに沿っているか、入試方法への反映はなされているか。	入学生のアンケートから7割以上の学生が本校の理工系の教育内容[AP2]やものづくり[AP3]、技術を通じた社会貢献[AP4]に興味を持っており、入学者はAPIに沿っていると評価できる。また入学者は、入学者選抜の方針に沿って決定されている。	4			
(3) 増募対策は効果的に行われているか。				最近の入学者数を参考に中学校をランク分けし、中学校訪問・地区入試懇談会・中学校での高校説明会を行っている。また、中学生一日体験入学を行い、これが受験するきっかけの大きな理由になっている。上記の取り組みにより入試倍率が堅調に推移している。	5				
7. 学習・教育の成果	7-A	学習・教育の成果	(4) 入学定員に照らして入学者数は適正か。	直近5年間の平均での定員充足率は104.9%、平成29年度は103.8%であり、適正といえる。	5				
			(1) 成績評価、卒業認定の結果から、DPに沿った学習・教育の成果が認められるか。	卒業要件からDP1-6を満足できる。DP1は一般科目の修得単位数、DP2-3は専門科目の審議対象科目、DP4は主に自主探究、DP5は地域志向科目、DP6は自主探究・卒研・英語科目の修得から卒業したすべての学生がDPを満足すると判定できる。	4	2学年まで進行している必修科目の制度によりDPとの整合はより具体的になる。DPと必修科目の対応について整理・確認することが必要。			
			(2) 卒業時の学生、卒業後5年程度の卒業生、就職先等の意見聴取の結果から、学習・教育の成果が認められるか。	卒業生アンケートの結果から、7割以上の学生が本校で学習した内容が現在も役立っていると回答しており、学習・教育の成果が認められる。就職先からの回答も基礎知識や情報処理能力・専門知識の問いに、6~7割の企業が「高い」「少し高い」と回答しており、学習の成果が認められる。	5				
			(3) 最近5年間の就職率、進学率から判断して、学習・教育の成果が認められるか。	進学率・就職率は5年100%を堅持しており、学習・教育の成果が表れている。	5				
8-A	専攻科教育課程の編成、学習・研究指導、成績・修了認定	(4) 就職先、進学先は養成しようとする人材像に適したものとなっているか。	進学先には理工系大学、就職先には製造業に就職している。これらの就職先や進学先からのアンケートからDPを満足しており、要請する人材像に適していると判断できる。	5					
		(1) CPIに基づくカリキュラムとなっているか。	CPIに基づき、授業科目を学年ごとに適切に配置し、体系的に編成されているといえる。	5					
		(2) CPIに照らして講義、演習、実験、実習等のバランスが適切であり、学習指導上の工夫は行われているか。	ICTを利用した授業(総合英語C)や地域課題に取り組む授業(EDや特別研究)を取り入れている。特別研究の割合が24%となり、講義等のバランスは適切に配置されている。	4					
		(3) CPIに掲げる国際的な発表・討議力、異文化理解を育むための国際交流活動が行われているか。	海外研修を最大6カ月可能とし、半分の学生が3~6カ月間の海外研修を経験している。特別研究の最終発表では全員が英語発表を行っている。また、海外での国際会議での英語発表を推奨している。	5					
			(4) CPIに基づき、教養教育や研究指導が適切に行われているか。	CPの編成方針に基づき、一般および専攻共通科目を設定している。また、特別研究の指導体制を整備し、さらに各種発表会等を通じて、解決能力育成に努めている。	5				

基準	No.	視点	観点	状況	自己評価	改善点	外部評価	コメント
8. 専攻科の教育活動の状況	8-B	APIに沿った専攻科学生の受入れ	(5) 成績評価・単位認定基準および修了認定基準がCPIにしたがって策定され学生に周知されているか。また成績評価・単位認定および修了認定が適切に実施されているか。	成績評価・単位認定・修了認定基準は所定の単位や英語能力・研究能力を評価しており、CPIに掲げるそれぞれの項目を満足しており、修了認定も専攻科委員会において、別紙資料の通り適切に行われている。	5		5.00	・卒業予定者は地元企業からの引き合いが強い。高専で学び自主研究した成果が即戦力として、また、将来性を兼ねた人材として期待されていることへの表れである。
			(1) 専攻科APIに沿って適切な入学者選抜方法が採用され、実際の学生受入れが適切に実施されているか。	科学技術の重要性や多角的視野を有し、多様な価値観理解に意欲のある学生を受け入れられるようにAPを周知し、推薦と学力選抜において面接等で確認している。また、本科卒業前に専攻科入学予定学生に対する説明会を実施して、再度APIについて確認している。	5			
			(2) APIに沿った入学者を受け入れているかどうかを検証する取り組みが行われており、その結果が入学者選抜の改善に役立てられているか。	推薦・学力選抜試験の提出書類の一つである「自己アピール文」の記載内容および面接によってAPI(技術の重要性)からAP5(多様な価値観の意欲)を把握している。	4			
	8-C	専攻科の学習・教育の成果	(3) 実際の入学者数が入学定員に対して適切か。	定員充足率は学科改組後、101%と順調に推移しており、適切と評価できる。	5			
			(1) 成績評価・修了認定の結果から判断してDPIに沿った学習・教育研究の成果が認められるか。	年度当初のガイダンスと成績評価資料から必要な単位数の他に、DPを満足するための科目(実験、学外研修、EDなど)の修得を義務付け、これを満たすように指導している。また、修了認定も必要な単位数および、DPIに合致した修得すべき科目を習得した上で修了を認定するようにしている。	4			
			(2) 学生、修了生、進路先関係者等からの意見聴取の結果から判断してDPIに沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。	卒業生アンケートより7割以上の学生が学習内容が現在も役立っていると回答している事から学習・教育の成果が認められる。また、就職先からの回答も専門的知識の問いに6~7割の企業が「高い」「少し高い」と回答しており、学習の成果が認められる。	5			
			(3) 就職や進学など修了後の進路状況から判断して学習・教育・研究の成果が認められるか。	進学先には理工系大学院、就職先には各種の公務員や製造業に就職しており、APIに掲げるものづくりに適した人材を輩出しており、要請する人材像に適した進学先・就職先と評価できる。	5			
A. 研究活動の状況	A-A	研究活動の状況	(1) 研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。	研究に関しては方針が“地域社会に密着し、産業界に貢献できる工学系高等教育機関としての研究をすすめる”と制定されている	4	テクノセンター規則等の見直しにより詳細な規定を策定する	4.67	・活動評価としては外部資金獲得総額、件数ともに大きなウェイトを占めますので宜しくお願いいたします。 ・積極的な研究活動を展開されていると認識しております。 ・ポスター発表会でプレゼン能力も培っている。こうした活動を地域としてもバックアップできないかと考えさせられる。
			(2) 研究活動等の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。	本校では1学科4コース制(本科)、1専攻4コース制(専攻科)の下、教育・研究を進めている。 一般科目を専任教員21名(教授8、准教授9、助教4)、専門科目を専任教員41名(教授18、准教授14、講師2、助教4)による教育・研究を行っている。 教育研究支援組織として、総合情報センター(図書館を含む)、地域テクノセンター、地域文化研究センター、ものづくりセンター、教育研究支援センターがある。このうち、これらの施設が産学官連携共同研究の支援を通じ、地域社会に密着し、産業界に貢献できる工学系高等教育機関としての研究、およびその成果の専門教育への反映に資する。	5			
			(3) 研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。	H28年度実績で、論文等56件、口頭発表98件、科研費19件、外部資金受入31件・約7,900万円、共同研究8件、受託研究4件であった。	5			
			(4) 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。	・地域テクノセンターに教育研究部をおき、研究全般の実施状況および問題点の把握、改善に努めている。 ・科学研究費助成への応募に関する講習会(9/9)、公的研究費に関するコンプライアンス研修会(2/27)を開き、科研費への意識向上を図った。	4			
B. 地域貢献活動等の状況	B-A	地域貢献活動等の状況	(1) 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。	学生便覧の教育研究活動の基本的な方針の項において、地域貢献活動の目的として、“地域に密着した工学系高等教育機関として教育研究活動の個性化を図る”ことが定められている。	4		4.56	・広報、啓蒙のみならず相談件数や共同研究の成果が問われます。 ・十分な地域貢献活動をされていると思います。 ・「化学の学校」「クリスマスレクチャー」「まちなか文化祭」など、よくやられていると思う。 ・地域貢献活動がしっかり実施されている。メディアへの露出度がもう少し高くなれば、地域の魅力ある学校として認知度が更に上がると思う。
			(2) 地域貢献活動等の目的に照らして活動が計画的に実施されているか。	学生便覧の教育研究活動の基本的な方針の項において、地域貢献活動の基本方針として、以下の6項目が定められている。 ・地域中学校の理科教員を対象とした研修及び小中学校での出前授業の実施など、地域への教育サービス提供に努める。 ・「学術的研究成果」の公開や「ものづくりの楽しさ」の体験を通じて、地域住民とのふれあいに努める。 ・図書館、体育館等の構内施設の開放を通じて、正規課程の学生以外のものが学習する機会を提供する。 ・地域の公的な各種委員会の委員を通して地域貢献に努める。 ・地域社会に密着し、産業界に貢献できる工学系高等教育機関としての研究を進める。 ・産学官連携共同研究の成果等を専門教育に反映する	5			
			(3) 実績や参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。	公開講座12件(満足度率94%)、出前授業7件を始めとして多数の実績がある。また、その他にも、あおり県企業内容説明会、COCフォーラムまちなか文化祭など多数の催しを行っている。	5			

基準	No.	視点	観点	状況	自己評価	改善点	外部評価	コメント
			(4) 地域貢献活動等に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。	地域テクノセンターに産学交流部を置き、地域貢献活動、産学(金)交流活動、地域企業との連携に対する問題点の把握、改善を図る体制をとっている	4			